

平成 28 年 3 月 31 日

教育開発推進機構長殿

学部長 新富 康央

平成 27 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	人間開発学部
事 業 名	「人づくりのプロ」を育てる学部教員の実践的指導力の自己開発 —教育実習・保育実習に焦点をあてて—
平成 27 年度実務担当者名	伊藤 英之
事 業 の 概 要	
【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？ （いずれかにチェック）	
<input type="checkbox"/> 計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね計画通りであった <input type="checkbox"/> あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/> 計画通りではなかった	
（以下、 <u>本年度の推進事業の概要</u> について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）	
<p>本年度の FD 推進事業の目的は、教育実習・保育実習前あるいは実習後に身につけておきたい資質・能力、しておきたい経験を明らかにし、学部としてその育成のあり方を構築することであった。この目的を達成するために以下のような計画を立案した。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 保育者養成カリキュラムにおける保育実習の目的を本学部として明確にし、学生にとってよりよい保育実習ができるような支援体制を構築し、実施後の振り返り・検証を FD 協議会として行い、「子ども支援」の理念を実現する保育者養成のありかたを討議する。2) 教育実習の関連科目ならびに導入基礎演習・演習などで育成したい資質、能力、経験等をふまえた実践と振り返りを行う。実施効果について、学生・教員双方のアンケート調査の分析によって明らかにする。3) 学部全体の FD 協議会を「人づくりのプロを育てる」という観点から行い学科からの発表・討議を行うと同時に、外部講師を招いた講演会を行う。 <p>1) に関しては子ども支援学科が、2) に関しては初等教育学科および健康体育学科がそれぞれ取り組んだ。これら取り組みの詳細は別添の資料（別添 1～3）をにて示す。</p> <p>年度の始めには、教職関係のカリキュラムで先進的な取り組みをしている大学への情報収集を実施したり、本事業の課題に対する学部専任教員の理解を深めるために関連図書を用意するなどした。また、上記 1) 2) の調査結果を 10 月に開催した学部 FD 協議会にて共有し、学科ごとに今後の課題を検討した。この結果を踏まえて 12 月に FD 協議会を開催し、外部講師を各学科 1 名の計 3 名招聘し、本事業の成果の発表と討議、外部講師の講演を行った（上記 3)）。また、予算の執行についても、補正を行ったのは「旅費交通費」であり、FD 協議会に招聘した外部講師の交通費および宿泊費を見積もっていた分であった。予算執行率は 92.2%であり、執行内容および執行時期もほぼ計画通りにできたと言える。</p> <p>以上より、本年度の FD 推進事業は、概ね計画通りに実施されたと考えられる。</p>	